

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

十勝さらべつアウトドア観光未来計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道河西郡更別村

3 地域再生計画の区域

北海道河西郡更別村の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

北海道河西郡更別村は、十勝平野の真ん中で、日本有数の大型農業を基幹産業としてきている地域である。

本村においても、少子高齢化が進行し続け年少人口が平成12年から平成22年までの10年間で約110人減少し、人口全体に占める割合も、18%から14%に減少している。社会動態データ（転入転出）では平成15年以降マイナスであり人口減少の要因となっている。

更別村人口ビジョン設定値において平成27年において3,347名と目標値を設定していたが、国勢調査の結果では3,185名となり約6%の162名の減少と大きく乖離している現状がある。さらに、平成52年には、人口が2,800人と推計されているが、この結果を踏まえると下降線が急激になると予想され人口減少対策による地域経済縮小克服が最大の課題となっている。

本村においては、生産人口が減少し、地域内消費の減少が進み、地域資源や地域産業の活性化と利益の追求と新たなビジネスを生み出していく必要があるが、特に、人口減少から産業活力が減少しており、地域資源の磨き上げを行わなければ、既存の産業が衰退していく懸念があり、また、産業に対する魅力が無ければ民間ベースの新たなビジネスに結びつくことが難しいといった現状がある。このため、地域の雇用を支える、農業、林業、観光関連産業、商工業者等には創造性豊かな人材が必要となっている。

人口減少、高齢化社会という本村における課題においては、地域生活の維持と交流人口の拡大等による地域自体の活性化の実現を図る政策が必要である。生産人口の減少に比例して地域産業の担い手不足も深刻化し、地域サービス利用者も減少していく中、従来と同じく細分化された事業発想では非効率であり、事業の融合による効率化とシナジー効果を求めた事業展開を図ることが必要である。しかし、都市圏への人口流出に伴い、人材

が減少し次世代を担う「若者」が生まれにくい現状課題がある。

これらのことから、地域の観光資源の磨き上げとして、産業観光、エコツーリズム、医療観光、スポーツ観光など、他の自治体では地方特有の観光開発が進む中、本村では、観光資源の磨き上げや、プロモーション不足から、交流人口の減少に歯止めが利かない。本村で行う財政、金融、税制支援政策から解決できるものではなく、且つ、人的、異業間、社会的ネットワークが構築されておらず、本村の観光政策においては観光ネットワークを構築していくことが重要となっている。地域間相互の連携、広域観光連携、民間企業との連携の展開から様々な観光アイテムを繋ぎ合わせた、商品、サービスの開発を推進していくことが本村には必要である。

十勝全体を見た場合においても通過型観光からの脱却ができず、この対策として十勝アウトドアDMOの設立、申請を行うところであるが、十勝の19市町村において、それぞれの自治体が魅力あるアウトドア観光資源の整備も求められており対応を急ぐところである。観光による収益力を高め地域の「稼ぐ力」を引き出すためにも、本村の観光資源の磨き上げが必要である。

4-2 地方創生として目指す将来像

更別村には、日本一の大型農業風景、自然豊かな広大な台地、霧氷スポットなど豊かな自然空間があり、また、54ホール的大型パークゴルフ場や釣り堀、日本で数少ない国際サーキットといったレクリエーション施設があり、十勝の食などを繋ぎ合わせた特色ある資源とすることが可能である。この特色をさらに磨き上げ、村内外に向けて広く発信することにより誰もが住みたい・住み続けたいまちとなり、大都市では感じられない「癒し」「安らぎ」、時間の流れがゆっくりと進む風景を生かしていくことで、多くの観光客でにぎわう「まち」を目指す。

さらべつカントリーパークは平成4年に整備され、村の観光施設として交流人口確保の重要な施設であり平成28年度利用者は6,300名となっている。敷地面積は30haであり広大な敷地を有している。施設はトレーラーハウス、ヨーロッパ風のコテージ、テントサイト、センターハウスにはフロント、団らん室、売店があり、パーク内には野外ステージやパークゴルフ場を有している。

本村では、数少ない観光拠点として位置づけているキャンプ場であり、交流人口が減少する中、アウトドアレクリエーション施設をより活用して施設を活性化させなければならない。都心にはない魅力を北海道外へ発信し効果的、効率的な情報発信が必要となる。単独で集客力のある施設とし

て存続するためにも、また、十勝アウトドアDMOであるディスティネーション十勝と連携するためにも施設の魅力アップが必要である。十勝全体のアウトドアブランド化に向けた取り組みが必要として、地方創生加速化交付金により十勝19市町村の広域事業でアウトドアの調査実施を行ったところであり、十勝のアウトドアによる地域活性化政策が住民からも期待されている。キャンプ場に隣接する、国際サーキットに認定される十勝スピードウェイや1km先には道の駅さらべつがあり、それぞれの施設の相乗効果が生まれる事業展開が望まれている。(株)スノーピークとの地域包括連携により、連携強化を図り観光資源の磨き上げの足がかりとしてだけでなく、民間で培われたノウハウを生かし村全体の活性化に繋げていく。平成28年度の更別村における入込客数は43,000名となっているが、27年度54,000名であり、約20%減少し、当該施設利用者では平成28年度6,300名、平成27年度6,500名でキャンプブームの影響で3%の減少に留まったが収入では利用者数の減少により約130万円(平成28年度売上約2,000万円)減少している。しかし、入込客数に比例して宿泊利用者も減少していることは明白であり、更別村の魅力、活力をアピールしていく場として、また、利用客の期待に応える施設として整備し、交流人口増対策を早急に実施していかなければならない。ハード面の整備からソフト事業の充実、各種イベント開催等により集客増を目指していかなければいけないが、キャンプ場のコテージ等の宿泊人数に限りがあり、大型バス等でのツアーに対応することができない現状がある。シングルユーザーが増えている現状もあり、より多くの部屋数を整備する必要がある。商業と観光連携、コミュニティ施設と観光拠点、レンタサイクルや観光ガイド機能、利用者の求める機能整備が必要である。

通過型ではなく滞在型の観光を目指し、観光資源の発掘と磨き上げを行い、観光から産業振興連携の強化を図り相乗効果による地域経済の活性化を図る。地域の住民が自然を守り育みつづけ、人や経済が循環するまちづくりを目指していくものである。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
村全体の観光入 込客数	43,000人	1,000人	2,000人	2,000人

観光施設売上	20,000千円	1,000千円	3,000千円	5,000千円
観光施設の延べ利用者数	6,300人	200人	500人	1,000人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
村全体の観光入込客数	2,000人	2,000人	9,000人
観光施設売上	5,000千円	5,000千円	19,000千円
観光施設の延べ利用者数	1,000人	1,000人	3,700人

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本村におけるアウトドア観光資源については、さらべつカントリーパークのキャンプ場を中心として、プラムカントリーパークゴルフ場を行政で有しており、交流人口確保の重要な施設として地域活性化を推進している。この度、更なる交流人口の増加と地域の活性化のため、さらべつカントリーパークをリニューアルしアウトドア観光の拠点として観光振興を図ることを目的に整備を行うものである。また、観光プロモーション事業から産業振興連携の強化を図り相乗効果により、人や経済が循環するまちづくりを目指して行くものである。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

北海道河西郡更別村

② 事業の名称：更別村アウトドア観光拠点整備プロジェクト

③ 事業の内容

さらべつカントリーパークは、本村にとって数少ない環境拠点として位置づけているキャンプ場であり、アウトドアレクリエーションとして

施設の活性化を図る事業展開が望まれる。十勝アウトドアDMOとの連携を視野に入れ、十勝全体のアウトドアブランド化に向けた取り組みが必要である。この度、平成4年に整備された施設のキャンプ場のリニューアルを行い、隣接する、国際サーキットに認定される十勝スピードウェイや1km先には道の駅さらべつが存在しそれぞれの施設の相乗効果が生まれる事業展開を図り、更別村の魅力、活力をアピールしていく施設整備とし、ソフト事業の充実、各種イベント開催等により多くの集客を目指していくものである。また、商業と観光連携、コミュニティ施設と観光拠点、レンタサイクル事業や観光ガイド機能、利用者の求める機能の充実を図り、通過型ではなく滞在型の観光を目指し、観光資源の発掘と磨き上げを行い観光から事業連携の強化を図り地域経済の活性化に寄与する施設整備とする。

1、更別村アウトドア観光拠点施設整備事業

平成4年に整備されたさらべつカントリーパークについては、幾度と無く小規模改修を行ってきているところであるが、この度、大規模な改修を行うこととして「更別村アウトドア観光拠点施設整備事業」を実施する。この整備に伴い観光事業との連携によるそれぞれの特色をいかした、観光スポットの磨き上げ、観光サービスの造成、開発を促進する。

さらべつカントリーパークの大規模改修事業により、施設収入の倍増を目指しハード面の整備を足がかりとして、自然環境や食を生かしたツーリズムなど、旅行者のニーズに対応した、地域資源を活用したソフト事業の充実を図るため全面リニューアルを行うものである。

① 宿泊施設の増築

宿泊施設の増築により、本施設の安定収入を見込むものである。平成28年度の既存施設の利用率(トレーラーハウス5棟ベース)では、193件に留まり731名の利用者で施設利用率10.5%である。平成28年度のベット稼働率で考えた場合では、8%の稼働率でしかない。近年、十勝の都市型ホテルは増加傾向にあり、また、相対的に大型化し十勝における滞在型観光が活性化している。このため本施設では、単なる宿泊施設としてではなく旅行会社との連携による集客力強化、キャンプ場という個性的なサービス提供による特定顧客層の囲い込み、ホームページの利便性向上、現地に合った運営マーケティングノウハウを構築していくこととしており利用率、稼働率の向上を図る。

② 水路改修工事

既存の水路の改修を行い、自然との調和と生き物の生態系を維持す

ることにより自然の不思議や大切さを学ぶ基地としての位置付けを行い、夏休みの活動や週末におけるファミリー層等を新たな顧客として獲得する。この事業は冬期に整備することが難しいことから平成30年度に予算化し本村の単独事業として実施する。

2、更別村アウトドア観光拠点整備に伴う効果促進事業

宿泊施設に必要な不可欠な電化製品を設置し5棟に整備する。また、義務化された火災報知機を全棟に整備し宿泊客の安全確保を行う。施設を利用する地域の住民、村外利用者の利用満足度を高め、利用者の安全を確保するために必要最小限の附帯設備から除外される設備を整備する。レンタサイクル事業を実施するための整備を行い、観光を目的とした回遊促進を目指し、一過性のものでなくリピート客を重要視した施設として付加価値を設ける。2棟あるサニタリー棟の様式替では、和式トイレを洋式トイレへ変更するものであるが、顧客アンケートでもトイレが和式であるデメリットとして、槽が浅く悪臭を放ち不衛生な印象を与えている。利用者の増加を図るために女性や子どもが安心して不安を感じない施設としてサニタリー施設を清潔で使いやすさを充実していき、利用者のSNSを活用した集客告知を利用した集客増を目指していく。この施設の整備により、官民連携、地域連携が本格稼動し、宿泊客をターゲットとした観光資源の大規模リニューアルとなる。村内の観光資源を多地点で結び、観光資源の特色を反映したルートの情報発信とツーリズムの融合、観光資源の磨き上げから、自然空間で演出不要の会議、レセプションを行うことに耐えうる環境へと変革させ魅力向上を行い利用者の増加と施設収入の増加を図る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本整備施設は、(株)さらべつ産業振興公社との密接な施設であり、施設の収入増により事業拡大等による事業の自立化を図るものである。

交流人口（施設利用者）の増加と、物産販売強化、レンタサイクルの活用により利用者の消費額の引き上げと、施設の利用料の増加を図り自主財源の確保から施設の指定管理委託料の減額を図り独立採算を目指すものである。さらべつカントリーパークの運営とさらべつ道の駅の運営を同じ「(株)さらべつ産業振興公社」が担い、当該施設利用者からの道の駅への誘客に繋げ道の駅の売上向上にも繋げ自立化を目指す。

地方創生拠点整備事業における収益は平成31年度より年間7,415千円の増加と見込み、また、平成30年度における更別村単独事業における遊水路整備より13,000千円の収益増加を予定するものであり、施設整備により健全経営ができると考える。既存の施設収入の倍増を目指し年間約40,000千円の収入を見込むこととしている。

本事業の運用においては、事業収入のほか、村の一般財源負担により自立した運営を目指しているところであるが、自主財源の確保に努め、将来の自立自走に向けて取組むこととしており、利用者アンケート、関係機関、事業者アンケート等を実施し、状況把握に努め、利用者拡大と健全経営を目指すこととしている。

【官民協働】

本事業の実施は、施設の利用者増加に直結しており既存観光資源の磨き上げを行う事業である。本施設の整備については、(株)スノーピークとの地域包括連携によるアウトドア観光のノウハウと、さらべつ振興公社の今まで培ってきた運営ノウハウの相乗効果から、更なる集客が可能となるものである。行政は更別村観光協会や地元商工会との連携により本整備施設をホームページ等で情報発信を行い交流人口の増加による市街地活性化に繋げる。

また、十勝アウトドアDMO（ディスティネーション十勝）との連携によって、旅行会社のニーズに合わせた地域へのマッチングや新たなコンテンツの発掘などの十勝管内観光のワンストップ窓口としての機能を活用し、道外者への本施設を含めた観光ツアー実施や地域の魅力アッププロモーションによる十勝全体の観光アイテムの1つとして位置付けし近隣の観光施設の回遊性を創出し相乗効果を図る。

ツアー会社のJTBや札幌中央バス関連会社の(株)シービーツアーとの連携による更別村独自の観光モニターツアーや南十勝観光の宿泊地として利用促進を目指す。また、ツアー会社はツアーデータを活用して今後の事業展開を図り、PR活動による村への誘客を図る。また、金融機関は、民間事業者が行う取組について投融資により継続的な事業推進を支援していく。

【政策間連携】

① 観光政策と雇用政策

本事業によって整備されるさらべつカントリーパークを基軸として新たな働き方を提案していく。初期段階は、FreeWiFi環境整備よ

てレンタル会議スペースとしての活用を提案し、将来的には多拠点生活の基地化を目指していく。

② 観光政策と健康維持・コミュニティ形成

本施設は、レクリエーションの充実を目指しパークゴルフ場やバスケットゴール（3on3）を整備しており、本事業の実施によりレンタルサイクル事業を実施することでアクティビティの充実が図られ、観光者のみならず、村内の日帰りユーザーを取り込み、運動や自然リラクゼーションの基地として、また、村内、道内、国内利用者の同じ目的を持つ新たなコミュニティ形成機能を持たせ、SNSの積極的利用によって再利用者の促進を図ることができる。

③ 観光政策から市街地誘客（産業振興）

本施設がキャンプ場であるという性質上、郊外地で敷地30haを有していることから市街地商店街から離れた場所に設置がされており、村内における交流人口の大部分を占める本施設を活用した事業展開として、観光ガイド機能と特産品販売等の市街地プロモーションを行うことによって村内における回遊性を高め市街地誘客につなげていく。また、特産品販売における販路と位置付けし販売増加を目指すものである。

④ 観光政策と移住者対策

本施設の整備によって、北海道外者の観光客が増えることにより観光情報の情報発信機能を活用し、併せてUIJターンの情報提供を行い、移住対策を図る窓口としての展開を図る。移住対策においては、街を知ってもらうことの重要性が高く、本施設を訪れ、本村に「来て」「見て」「体験」したユーザーへ直接的に本村の移住助成事業等の移住対策をPRすることによって、より効果の高い移住対策とすることが出来る。

【地域間連携】

十勝の中心都市である帯広市（ポロシリキャンプ場）と南十勝の中心地である更別村（さらべつカントリーパーク）がキャンプ場施設で連携し、相互魅力PRを行い十勝＝キャンプの聖地としての位置付け強化を図り新規顧客獲得やサービス向上による相乗効果を図る。十勝アウトドアブランディング事業（地方創生加速化交付金）からブランド化やマーケティング調査等実施したところであり、今後はディステーション十勝（アウトドアDMO）が中心となって観光商品開発、観光プロモーション誘客事業を十勝全体で行うこ

とによって、十勝19市町村が連携し、それぞれの地域におけるアウトドアや自然環境等の特性を生かした十勝観光コンテンツを形成する。この事業の実施により更別村におけるアウトドアの拠点基地が整備され、キャンプ地として条件が整うことになる。今後は、ソフト事業における各自治体の共通課題やニーズ調査を共有することによってそれぞれの地域の観光資源の磨き上げを行うことができ、十勝全体の活性化に繋がるものである。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
村全体の観光入 込客数	43,000人	1,000人	2,000人	2,000人
観光施設売上	20,000千円	1,000千円	3,000千円	5,000千円
観光施設の延べ 利用者数	6,300人	200人	500人	1,000人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
村全体の観光入 込客数	2,000人	2,000人	9,000人
観光施設売上	5,000千円	5,000千円	19,000千円
観光施設の延べ 利用者数	1,000人	1,000人	3,700人

⑥ 評価の方法、時期及び体制

毎年度、3月末時点のKPI達成状況を企画部署が取りまとめて、「産官学金労言」で構成する[夢大地さらべつ推進委員会]において、進捗状況や目標達成状況を報告し、検証・改善のための議論を行う。検証結果は、更別村のホームページで公表する

⑦ 交付対象事業に要する経費

法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 114,275千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 観光プロモーション事業（村独自事業）

事業概要： 更別村のPRを積極的に行い本村の観光事業を推進し、観光並びに産業の振興を図る。観光資源に関する調査研究、特産品に関する調査研究、宣伝紹介、観光イベントの推進を図り交流人口の増加を目指すものであり、更別村の観光協会や十勝観光連盟との連携を図り新しい人の流れをつくる。各種イベントの開催、観光事業、開発宣伝への支援を行い村の活性化に繋げる。

事業主体：北海道河西郡更別村

実施期間：平成29年度～平成33年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

4に示す地域再生計画の目標については計画期間の毎年度において計画主体が必要な調査を行い、速やかに状況を把握する。

【外部組織の参画者】

諮問会議である更別村夢大地さらべつ推進委員会において目標の達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行い、議会全員協議会の関与を得て検証結果報告をまとめる。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
村全体の観光入 込客数	43,000人	1,000人	2,000人	2,000人
観光施設売上	20,000千円	1,000千円	3,000千円	5,000千円
観光施設の延べ 利用者数	6,300人	200人	500人	1,000人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
村全体の観光入 込客数	2,000人	2,000人	9,000人
観光施設売上	5,000千円	5,000千円	19,000千円
観光施設の延べ 利用者数	1,000人	1,000人	3,700人

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

地方創生拠点整備交付金については、3月末時点のKPI達成状況を企画部署が取りまとめて、毎年度6月に「産官学金労言」で構成する有識者会議において、進捗状況や目標達成状況を報告し、検証・改善のための議論を行う。また、その結果を議会へ経過を説明し、意見をもらう。

効果検証結果の公表については、毎年度、村のホームページにより公表する。